

た い ひ 塾

聖地と巡礼

—信仰の“かたち”と“こころ”を訪ねる旅—

第2期・2011年10月～12月(いずれも土曜日11:00～12:30)

世界の各地には人々の信仰を集める聖地があり、巡礼が行われています。聖地と巡礼には、その宗教に特有な信仰の“かたち”と人々の“こころ”が表現されているといえます。本講座では、今日に至るまで長い歴史をもつ聖地と巡礼について説明します。みなさんも一緒に信仰の“かたち”と“こころ”を訪ねる旅に出てみませんか。

定員50人(申込み先着順)

場所：四天王寺大学藤井寺駅前キャンパス
曜日・時間：毎週土曜日 11:00～12:30

受講料：通期(全10回)10,000円 講座番号:134
各講座(1回) 1,200円 講座番号:124～133

*入会金不要。どなたでもいつからでも受講可能です。
ただし、図書館をご利用の際は、オープンカレッジへの入会(3,000円)が必要です。

●お申込み
☎072-956-3345(直通)
四天王寺大学 エクステンションセンター

1 10月15日(土) 古泉 圓順 名誉教授



玄奘三蔵のたどった道

玄奘は貞観3年、仏教研究を目指して、密出国し、印度への旅に出た。高昌国王麴文泰の厚遇で得た金品は、天山越えて山賊に奪われ、身一つでヒンズークシュの険路を渉り、印度のナーランダ寺に到着、成果をあげ、貞観19年に、南道を経て帰国する。旅行記は、当時のシルクロードの人情や風俗を伝える。

2 10月22日(土) 藤谷 厚生 准教授



奈良仏教の聖地

奈良はシルクロードの終着点であり、中国や朝鮮を経て仏教は奈良の地で華を咲かせました。本講では、聖徳太子の飛鳥時代から天平時代に至る仏教の伝播変遷の中で、奈良仏教の聖地となっている寺院、旧跡を取り上げ、その特徴をお話します。

3 10月29日(土) 堀川 敏寛 講師



三大宗教の聖地エルサレム
—イエス・キリスト受難の地と十字軍—

現在のイスラエル国の首都エルサレムは、ユダヤ教・キリスト教・イスラームの聖地です。約二千年前に宣教活動をしていたイエス・キリストが十字架にかけられるまでの受難の道のりと、約千年前に十字軍が侵攻した場所がここエルサレムです。両者の真意と実態を講師の留学談を交えて紹介します。

4 11月5日(土) 堀川 敏寛 講師

ルルドとコンポステラ
—聖母マリアの出現と聖ヤコブの聖遺物—

ルルドの泉で有名なフランスの田舎町では聖母マリアが出現し、スペインのサンティアゴ・デ・コンポステラではキリストの十二使徒の一人である聖ヤコブの遺骸が収められています。これら現地の風景を見ながら、巡礼者の精神的充足を体感し、ヨーロッパのキリスト教(カトリック)文化を玩味しましょう。

5 11月12日(土) 岡崎 桂二 教授



イスラーム —巡礼・参詣・遊行—

イスラーム世界は高い移動性と学問重視を特色とする。その背景にはメッカ巡礼と、聖地や聖者廟への参詣がある。また学問修得のため人々は遊行を重ね、現代でも、カイロ等の学問センターには、各国から信者が集い、研鑽を積んでいる。このような隠された一面を明らかにし、イスラーム理解を深めたい。

6 11月19日(土) 愛宕 あまり 教授



聖地メッカ考

メッカはイスラーム第一の聖地です。世界中のイスラーム教徒がメッカにあるカアバ神殿に向かって毎日5回の礼拝を捧げ、また生涯に1度の義務として巡礼のためにこの町を訪れます。イスラーム教徒にとってメッカは全世界の中心であります。メッカ巡礼の儀礼とイスラームの絆についてお話します。

7 11月26日(土) 岡崎 桂二 教授

日本人のメッカ巡礼記

日本は世界でも稀なほどイスラームとユダヤとの接点を持っていない。その中にあって、明治時代より熱意溢れる人々が、幾多の困難を排してメッカ巡礼を果たしてその記録を残し、異教徒には閉ざされている聖域の実態を明らかにしている。この「巡礼記」を基にイスラーム受容史の一端を探る。

8 12月3日(土) 藤谷 厚生 准教授

弘法大師の聖地と巡礼

弘法大師空海は、奈良から平安という激動の時代変革の中で、真言密教という最新の仏教を我が国に導入しました。大師の開いた高野山金剛峯寺、京都の東寺、さらに西国霊場は今日でも巡礼者が絶えることがありません。本講では、そういった聖地や巡礼地の変遷や特徴についてお話します。

9 12月10日(土) 呂 順長 教授



中国の仏教聖地
—普陀山の観音信仰と日本の留学僧惠鏝—

杭州湾沖合に浮かぶ小さな島普陀山は中国四大仏教聖地の一つとして知られる観音信仰の霊地で、「海上仏国」とも称される。また普陀山の開山は日本の留学僧惠鏝であるとされる。本講では、惠鏝開山説をめぐる諸史料を紹介したうえ、現在普陀山が中国人の篤い信仰を集めている背景を考える。

10 12月17日(土) 西岡 祖秀 教授



天空の聖地 —チベット—

チベットの平均標高は4000メートル以上で、「世界の屋根」と呼ばれている。この天空の大地に仏教が伝えられたのは7世紀であるが、現在に至るまで脈々と仏教の信仰が受け継がれている。特に巡礼は聖地を通じて自己の身体と言葉と意識を正しくする修行であるとされ、人々の信仰生活の根幹をなしている。